

# 平成 28 年度事業報告

## (総括)

公益目的事業については、臨床検査精度管理調査は 3,934 施設が参加し、昨年度より 41 施設が増加した。臨床検査精度保証施設認証は、平成 29・30 年度認証施設数は 471 施設（新規申請 59 施設、更新申請 412 施設）となった。これにより、継続登録 271 施設を含めて平成 29 年度の精度保証施設認証数は前年度より 33 施設増加し、742 施設となった。

学術部門については、第 65 回日本医学検査学会、第 32 回世界医学検査学会を神戸市において同時開催した。第 65 日本医学検査学会の参加が 4,600 名を超え、第 32 回世界医学検査学会では、わが国を含む 34 か国の検査技師約 1,200 名、国内学生・教員 900 名を含め 2,000 名を超える参加者があり、成功裏に終了した。

平成 27 年 1 月から開催している「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」は、平成 29 年 3 月末で、3 万人以上が受講を終え、修了者には修了証書を交付した。

生涯教育の推進については、自己学修支援を目的に「e ラーニングシステム」の構築を進め、医療人スキルアップ、病態把握 (RCPC)、認定検査技師取得に向けた学修などのコンテンツの作成に努め、平成 29 年 7 月頃の本稼働を目指して準備を進めた。

法・涉外活動については、平成 28 年度診療報酬改定に対する実態調査を実施するとともに、平成 30 年度診療・介護報酬同時改定に向けて、臨床検査振興協議会と共に要望書作成に向けた調査を実施した。また、「検体検査の品質・精度管理に係る基準を定める根拠規定」の新設に伴う医療法、臨技法の一部改正及び検体検査分野の厚生労働省令委任に関する情報収集に努めた。

組織強化については、「女性管理職セミナー」「地域ニューリーダー育成講習会」などの開催を継続し、支部学会における養成校学生企画の「学生フォーラム」を開催した。また、「検査と健康展」並びに「支部学会」で中・高生向けの進路支援ガイダンス事業を展開し、臨床検査技師の社会的向上、組織強化に努めた。

今後とも 医療情勢、医療技術の急速な進展に対応するため、国が進める医療と介護を主軸に患者を地域で支える「地域完結型医療」を視野に、多職種連携医療の中で、専門性を生かして活躍できる人材育成に取り組むとともに、都道府県技師会と連携し、地域や小規模施設などで活躍している会員のニーズの情報収集に努めた。

## 1. 公益目的事業 ~臨床検査精度保証事業・臨床検査精度管理調査事業の推進~

臨床検査値の標準化事業を引き続き推進することで、臨床検査の精度向上を図り信頼性の高い検査データを創出し、国民の医療に貢献することを目的とし、各事業を推進している。

### 1) 平成 28 年度日臨技臨床検査精度管理調査

- ① 今年度は、3,934 施設・3,978 件の参加があり、昨年度より 41 施設増加した。施設別報告書は、8月末に JAMTQC のサイトで公開した。総合報告書は、2月末に JAMTQC で公開、3月初めに総合報告書 (CD-R) を各施設宛に郵送した。
- ② 日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会を平成 29 年 3 月 4 日（土）に「TFT ホール 1000（東京都江東区）」で開催し、参加者数は 561 名で活発な質疑応答が行われた。

### 2) 臨床検査精度保証施設認証

平成 29・30 年度精度施設認証は日本臨床検査標準協議会と連携して認証審査した結果 471 施設（新規申請 59 施設、更新申請 412 施設）を認証した。前年度より 33 施設増加し、精度保証施設認証総数は 742 施設となった。

### 3) 臨床検査データ標準化の推進

- ① 平成 19 年度から実施している臨床検査データ標準化の実施内容を総括し、今後の事業展開を見直した。基幹施設の検査データの精確度については、6 月の全国臨床検査精度管理調査に加え、8 月及び 11 月の年 3 回の精度管理調査を実施して評価した。
- ② 基準検査室については、日本臨床検査薬協会との共同事業として、第 3 回基準測定操作法の技術の習得のための講習会を 2 月 18 日（土）、19 日（日）に開催した。
- ③ 血液形態標準化普及推進は、日本臨床検査標準協議会、日本検査血液学会と血球形態標準化合同 WG を開催して、標準化に向けての最終案を策定した。
- ④ 都道府県が実施している精度管理調査の臨床化学精度管理試料を平成 28 年度から日臨技が受託製造を開始した。
- ⑤ 重点都道府県（10 都道府県）で精度保証施設認証及び JCCLS 共用基準範囲の取得・採用促進説明会を実施した。

## 2. 日臨技認定センター事業 ~職能教育の推進~

### 1) 組織運営

認定一般検査技師、認定心電検査技師、認定臨床染色体遺伝子検査師、認定病理検査技師、認定認知症領域検査技師、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、認定救急検査技師の各認定制度に係る研修会、講習会を実施した。認定総合監理検査技師制度では認定管理検査技師制度夏季セミナーを実施した。また、認定監理検査技師制度を見直し、新たな認定管理検査技師制度の検討に着手した。

日臨技認定センター専用のメルマガを月 2 回配信し、単位取得可能な承認研修会、指定講習会、認定試験等の情報を発信し、認定検査技師制度の受験環境等の整備を図った。

### 2) 各認定試験

各認定検査技師試験を実施し、審議会で 60% 以上の正答率を目途に合格者を選定し、認定協議会において承認した。中央認定委員会を開催し、合格者及び各認定

更新者を認定した。各認定有効期間は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までの 5 年間とした。

#### 《認定検査技師試験》

認定検査技師名	受験者	合格者	合格率
認定一般検査技師制度	127 名	35 名	27.5%
認定心電検査技師制度	101 名	73 名	72.2%
認定臨床染色体遺伝子検査技師制度	染色体分野 遺伝子分野	5 名 7 名	80.0% 57.1%
認定病理検査技師制度	246 名	168 名	68.2%
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度	65 名	55 名	84.6%
認定認知症領域検査技師制度	68 名	57 名	83.8%
認定救急検査技師制度	30 名	28 名	93.3%

#### 《更新申請》

認定検査技師名	承認者	更新遅延申請 ・承認者	更新対象者
認定一般検査技師	34 名	3 名	37 名
認定心電検査技師	92 名	7 名	155 名
認定臨床染色体遺伝子検査技師	染色体分野 遺伝子分野	2 名 4 名	3 名 4 名

### 3) 認定制度に関わる研修会・講習会 《別紙 資料1 研修会等開催状況》

日臨技認定センター・都道府県技師会の申請承認研修会並びに日臨技認定センター主催の受験資格に必要な指定講習会を開催した。

## 3. 学術振興事業 1 ~主催学会の充実、支部の運営、国際学術交流の推進~

### 1) 主催学会の充実

#### ① 第 65 回日本医学検査学会の開催 (学会長: 中町 祐司 担当県: 兵庫県)

平成 28 年 9 月 3 日 (土) ~ 4 日 (日)、神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場・展示場にて 4,614 名 (会員 3,712 名) の参加者のもと一般演題 578 題、特別演題 2 演題、部門企画 29 企画、展示 93 社 841 小間と成功裏に終了した。優秀論文賞 3 編、最優秀演題賞 1 編、優秀演題賞 5 編、特別奨励賞 3 編の表彰を執り行った。

#### ② 第 32 回世界医学検査学会 (The 32nd World Congress of the International Federation of Biomedical Laboratory Science) の開催 (学会長: 宮島 喜文)

平成 28 年 8 月 31 日 ~ 9 月 4 日、28 年ぶりに日本で開催した第 32 回世界医学検査学会は、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、我が国を含む 34 か国の検査技師約 1,200 名、国内の学生・教員約 900 名と 2,000 名以上が参加し、9 月 2 日の開会セレモニーでは秋篠宮殿下の心温まるお言葉を頂戴し、JAMT Scientific FESTA の企画として展示された「震災後の DVT 検診活動の実際」「50 年にわたる精度保証の歴史と成果、今後の課題」「薬剤耐性菌対策」という 3 つのブースをご観察いただいた。

また、学術企画においては、ノーベル化学賞受賞の田中耕一先生の特別記念講演の他、特別企画などの依頼講演を含めた演題数は 80 本以上、ポスターセッションでも 520 本を超える発表があった。

#### ③ 支部学会の開催

北日本支部（新潟県：学会長 渡邊 博昭、朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター）、関甲信・首都圏支部（山梨県：学会長 大澤 智彦、セレス甲府・アビオ）、中部圏支部（石川県：学会長 油野 友二、ホテル金沢）、近畿支部（和歌山県：学会長 竹中 正人、和歌山JAビル、新橋ビル）、中四国支部（高知県：学会長 小倉 克巳、高知市民文化プラザかるぽーと）、九州支部（佐賀県：学会長 堤 玲子、佐賀市文化会館）で開催した。中部圏支部・九州支部では学生フォーラムを、また中四国支部・九州支部では中高生向け進路支援ガイダンスも開催した。

#### ④ 支部研修会

北日本支部 7 研修会、関甲信支部 5 研修会、首都圏支部 7 研修会、中部圏支部 7 研修会、近畿支部 6 研修会、中四国支部 5 研修会、九州支部 9 研修会を開催した。

### 2) 支部の運営 《別紙 資料2 支部運営》

支部の運営を円滑に遂行するために、支部幹事会を年 2 回、学術を交えた支部内連絡会議を年 1 回開催した。また、日臨技の学術活動方針に沿った支部独自の特徴ある内容の学会・研修会等を開催し、学術と職能の両面について、会員の教育研修を実施した。

#### ① 支部幹事会

北日本支部、関甲信支部、中部圏支部、近畿支部、九州支部は年 2 回開催した。首都圏支部、中部圏支部、中四国支部は年 1 回開催した。

#### ② 支部内連絡会議

支部幹事、学術部長、各部門長との合同会議を各支部年 1 回開催した。

### 3) 國際学術交流の推進

#### ① 大韓臨床病理士協会（KAMT）への対応

平成 28 年度韓日代表者会議は、平成 28 年 5 月 27 日、韓国麗水市において開催され、日韓協定に基づき、代表者 3 名の招請に応じ派遣した。

平成 28 年度日韓代表者会議は、平成 28 年 8 月 30 日、神戸市において開催され、代表者 3 名と交流功労者を招請した。

#### ② 国際臨床検査連盟（IFBLS）への対応

第 32 回世界医学検査学会の IFBLS の代表者会議（平成 28 年 9 月 4 日）において、の片山博徳執行理事が次期 IFBLS 理事に選出された。

#### ③ アジア臨床検査技師会（AAMLS）への対応

第 16 回 AAMLS 理事会が平成 28 年 4 月 17 日に開催された。また、第 17 回 AAMLS 理事会が平成 28 年 9 月 4 日に開催され、加盟アジア技師会と、今後の学術交流に関する意見交換が行われた。

#### ④ 中華民国医事検験師公会全国連合会（TAMT）との交流

平成 28 年 4 月 16 日～17 日、中華民国医事検験師公会全国連合会（TAMT）APFMLS 学会（学会長 吳 俊忠）が中国医薬大学（台中）で開催され、参加国技師会との交流を深めた。また会場において第 32 回世界医学検査学会の PR 活動も行った。

#### ⑤ The American Society for Clinical Pathology（ASCP）への短期留学

平成 28 年 10 月 2 日～8 日、ASCP への短期留学制度に参加し、米国 Loyola 大学メデイカルセンターへ会員 1 名を派遣した。

#### ⑥ 開発途上国への技術支援に向けての調査

平成 29 年 1 月 29 日～2 月 2 日、日臨技国際協力事業としてカンボジア国支援基礎調査の為、国際 WG 委員 3 名が現地に赴き、国立病院、関連施設の視察及びカンボジア保健省、カンボジア技師会との意見交換を行った。

また、平成 29 年度医療技術等国際展開推進事業（国立国際医療センター国際医療協力局）に公募した「カンボジアにおける臨床検査の質の向上事業」が採択された。

#### 4. 学術振興事業 2 ~主催学術教育研修、会誌「医学検査」を含む出版の充実~

- 1) 主催学術教育研修 《別紙 資料 1 研修会等開催状況》
  - ① セミナー・研修会の企画・開催  
「第 3 回遺伝子・染色体研修会」  
10 月 15 日（土）～16 日（日）長浜バイオ大学 28 名  
「肝線維化診断へのアプローチ」  
9 月 4 日（日）神戸国際展示場（第 65 回日本医学検査学会内）120 名  
「第 2 回乳房超音波技術講習会」  
9 月 18 日（土）～19 日（日）藤田保健衛生大学 48 名  
「輸血テクニカルセミナー 2016」  
3 月 18 日（土）～19 日（日）東邦大学大森病院 講義・実習 95 名、講義のみ 70 名
  - ② 会員ネットワークの構築  
学術委員会、学術企画 WG の各委員に支部学術部長を選出した。また学術委員会から支部学術部門長や部門長宛てに一斉メール配信が行えるシステムを整備した。
  - ③ Web 方式による自己学習の推進（緊急検査分野）  
会員ページに「微生物」「血液」「生理（心電図）」「生化学」「血液ガス」「輸血」「一般検査」の e ラーニングコンテンツ（FLASH 形式）を公開した。
- 2) 会誌「医学検査」を含む出版の充実
  - ① 「医学検査」の充実  
第 63 卷各号から「国立研究開発法人科学技術振興機構」（JST）が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）へ登載された。
  - ② JAMT 技術教本シリーズの発刊

呼吸機能検査技術教本	平成 28 年 6 月 24 日流通開始
臨床検査技師のための臨床研究・治験ハンドブック	平成 28 年 8 月 5 日流通開始
超音波検査症例集	平成 28 年 8 月 31 日流通開始
呼吸機能検査症例集	平成 28 年 8 月 31 日流通開始
一般検査技術教本	平成 29 年 4 月 7 日流通開始
微生物検査技術教本	平成 29 年 3 月 25 日流通開始
臨床免疫検査技術教本	平成 29 年 4 月 流通開始
臨床検査技師のための医療安全管理教本	平成 29 年 3 月 流通開始

#### 5. 職能開発事業 ~検体採取等業務の講習、チーム医療の推進、生涯教育の推進~

- 1) 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会の開催  
今年度は 12,000 名を受講目標に全国 9 力所述べ 37 会場で開催し 10,465 名が修了し、総

修了者は 31,191 名となった。

また、講義資料一式（会長挨拶、講義用ビデオ、実技シミュレーションビデオ、テキスト、確認試験問題）の見直しを行い、平成 29 年度開催分から使用することとした。

## 2) チーム医療の推進

### ① 検査説明・相談のできる技師育成事業の充実

平成 26 年度から 3 カ年計画で『検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会』を実施した。最終年度の今年度は 39 都道府県で開催され、修了者は 1,448 名であった。3 年間で延べ 4,971 名となり、3 年継続事業の目標であった「修了者 5,000 名」を概ね達成することができた。

### ② 先駆的チーム医療実践講習会を通じた普及啓発や教育研修

病棟業務への臨床検査技師の参画並びに業務拡大に対しての課題解決に向けた実践講習会を開催した。

・認知症領域での検査技師実践啓発講習会：平成 29 年 1 月 15 日（日）59 名受講

・病棟業務課題解決実践講習会：大阪会場 平成 29 年 1 月 12 日（日）54 名受講

東京会場 平成 29 年 2 月 18 日（土）50 名受講

・病棟業務に必要な能力開発実践研修会

平成 29 年 3 月 18 日（土）・19 日（日）55 名受講

### ③ 厚労省ガイドラインによる医療安全管理者養成講習会の開催、更新制度の整備

「医療安全管理者養成講習会」を以下の合計 6 日間開催し、32 名が受講した。3 年間で 105 名が修了した。

第 1 クール：平成 28 年 10 月 14 日（金）～16 日（日） 3 日間

第 2 クール：平成 28 年 11 月 11 日（金）～13 日（日） 3 日間

## 3) 生涯教育の推進

### ① ステップアップ型の新生涯教育研修制度（e ラーニングを含む）の構築

平成 26 年 3 月 9 日答申された第 4 次マスター プランにおいて、e ラーニングの導入の具体化が明記されたことから、e ラーニングの構築に向け「e ラーニング推進 WG」を立ち上げ、自己学習用のコンテンツの提供、自己キャリアプランの支援を目的とした、「自己評価」コンテンツの提供、グループディスカッション形式を導入した RCPC のコンテンツの提供、医療人スキルのコンテンツを中心に検討を進めた。本年 7 月の本稼働に向け、福島県、神奈川県、愛知県、大阪府、広島県、愛媛県で試験運用し、課題等の抽出を行った。

### ② 都道府県技師会への「生涯教育推進研修会助成金」（新入会員教育を含む）

都道府県技師会から申請のあった 705 件の研修会に助成した。また、新入会員を対象とした研修会が 20 都道府県技師会で開催された。

## 6. 法・涉外活動～法制度対策、関連団体・施設連携、病棟・在宅業務調査～

### 1) 法制度対策

#### ① 省令改正に関する厚労省・各種団体との折衝

・日本耳鼻咽喉科学会、日本言語聴覚士協会との合同会議を開催し、臨床検査技師、言語聴覚士の業務範囲拡大について協議し、三者合意のもとに厚生労働省に業務追

加の省令改正の要望書を提出した。

- ・臨床検査振興協議会、同協議会各 WG 会議へ参画し、共同事業の開催並びに次期診療報酬改定等について、情報共有を図った。
- ・臨床検査技師の業務拡大等に関する懸案事項を「一般政策要求」として自由民主党及び公明党へ提出した。

② 次期の法改正に関する対応

医療機関、衛生検査所等が実施する検体検査について、品質・精度管理制度を新設するための医療法、臨技法の一部改正並びに臨技法第 2 条に規定されている検体検査を検査技術の進展等に対し柔軟かつ迅速に整備できるように、検体検査 6 分類を省令委任する改正向けての検討がなされていることから、日臨技の意見、要望を出した。

③ 平成 30 年診療報酬改定に向けての基礎的調査・研究

- ・平成 28 年度診療報酬改定に伴う説明会

日臨技会館 3 月 26 日（土） 59 名が参加。

- ・平成 28 年度診療報酬改定の検証

2 月 8 日付「臨床検査の適正評価に関わる調査」を 1,000 施設に対しアンケート調査に実施し、収集した情報をもとに診療報酬対策委員会で検討した。

④ 法改正に伴う普及・啓発、実態調査

- ・「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」の受講促進

都道府県別、施設別の受講状況を提供して、受講促進に向けた啓発を都道府県技師会に依頼した。

- ・法改正を伴う臨床検査技師の業務（グレーゾーン）状況調査

臨床検査技師の医療現場での「グレーゾーンの業務」を把握する目的で、3,417 施設へアンケート調査を実施し 1,671 施設（回収率 48.9%）の回答を得て、今後の業務認証に向けた検討を開始した。

2) 関連団体・施設連携

① チーム医療推進協議会への参画

臨床検査技師に関わる業務拡大、診療報酬改定、チーム医療推進など多角的な連携の強化を図った。

- ・平成 28 年度同会主催第 2 回研修会

「地域包括ケアシステムにおけるチーム医療」日臨技より 11 名が参加した。

② CRC、臨床研究分野の意見交流

「第 16 回 CRC と臨床試験の在り方を考える会議 in 大宮」平成 28 年 9 月 18 日（日）～19 日（月）に支援団体として参画した。

③ 認知症対応力向上モデル事業（都道府県公募方式）

平成 28 年度は手上げ方式にてモデル県を募集し、愛媛県と長野県から応募があり活動を展開した。

④ その他分野での意見交流（糖尿病療養指導士、診療情報管理士、他）

日本病院会の診療情報管理士教育委員会が実施する「診療情報管理士通信教育」で平成 29 年度から臨床検査技師の編入が認められ、基礎研修の免除対象となった。

【具体的な改定内容：専門課程編入資格】

	【変更前】		【変更後】
修了期間	2年間	⇒	1年間
受講料	200,000円	⇒	100,000円
履修科目	21科目・全48単位	⇒	9科目・全24単位

### 3) 病棟・在宅業務調査

病棟業務への進出に向け、具体的なデータ抽出を行うための実地検証を8施設で実施した。8施設の調査は平成29年3月末に完了し、第66回日本医学検査学会にて実地調査結果の報告を行う予定。

- ① 病棟における臨床検査技師の業務実態に関する調査、検証（業務内容、業務量等）

昨年実地検証した聖隸横浜病院（中規模施設）、聖隸浜松病院（大規模施設）にて臨床検査技師の病棟配置の可能性についてデータ解析の結果、病棟に臨床検査技師を配置することの有用性が立証され、医師、看護師の負担軽減も確認できた。日臨技主催の学会において、「病棟業務シンポジウム」を企画し、会員に対し実証結果の情報提供を図った。

- ② 在宅臨床検査に関する調査

在宅医療を行っている404施設へ「在宅医療の現場における臨床検査に関する調査」を臨床検査振興協議会と共同でアンケートを実施し、172施設（回収率42.6%）から回答を得た。この調査結果は臨床検査振興協議会にから発刊された「在宅医療チームのための臨床検査」の冊子の中で、報告された。

また、先駆的な在宅医療の取組みを実施している5施設に対して訪問調査を行った。

### 4) 大規模災害への体制づくり

平成28年4月14日、16日に発生した熊本地震に対し、行政、日本臨床検査医学会、熊本県臨床検査技師会等の関連団体と連携し、被災検査室の支援並びに被災者に対して深部静脈血栓症（DVT）検診等の支援を行った。

- ① DVT検診「がまだせ！熊本ブルドーザー作戦」

5月3日から5月5日の3連休中に、全国から200名を超える臨床検査技師の協力のもと、27か所の避難所を巡回し、687名に対して血栓塞栓症予防検診を実施した。その後も熊本地震血栓塞栓症予防プロジェクトの一員として検診へ参画した。

- ② 「日臨技災害時支援対策マニュアル」

災害発生時の対応・対策の体制を構築するため、「一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会災害時支援対策マニュアル」第1版を平成29年1月14日に発行した。

- ③ 「日臨技DVT検診マニュアル」

東北・熊本支援で活動した会員の協力を得て、災害対策WGで「日臨技DVT検診マニュアル」を作成し都道府県技師会へ配布した。本マニュアルは第32回世界医学検査学会のJAMT Scientific FESTA 災害ブースにおいても公開した。

## 7. 組織対策・組織運営～組織基盤の整備、組織の活性化、組織の運営、その他～

### 1) 組織の活性化

- ① 中・高校生向け進路支援ガイダンス実施

将来の臨床検査業界を担う人材の発掘のため、中部圏支部、近畿支部、中四国支部、九州支部学会において、顕微鏡などを用いた体験コーナーを開催した。

② 支部学会における学生フォーラムの開催

・中部圏支部学会

テーマ「『良い臨床検査技師』ってどんな技師?」

・中四国支部学会

検査技師の職業紹介、学会・機器展示会見学

・九州支部学会

テーマ「学生としての現状と卒業後の私」

③ 地域ニューリーダー育成講習会の開催

平成 28 年 11 月 5 日（土）～7 日（月）晴海グランドホテルで開催し、都道府県技師会選抜の 30 代後半から 40 代の 37 名が参加した。

宮島会長より「臨床検査技師の未来を担うリーダーとは」と題して基調講演を行った後、受講生が 7 グループに分かれ、討議課題を与え、発表を行った。

④ 女性管理職セミナーの開催

平成 28 年 6 月 4 日（土）・5 日（日）日臨技会館で「人と組織の活性化をどう構築するか～特に女性技師のライフサイクルを含めたキャリアアップ構築について～」と題して、開催し 27 名が参加した。

⑤ 関連団体への協力 《別紙 資料 3 各種団体・学会 派遣一覧》

関連する団体や学会に対して、理事・評議員・委員等の役員を、当会から派遣し、専門的な技術支援を行った。

2) 組織の運営 《別紙 資料 4 委員会部会（ワーキンググループ）設置状況》

定款、組織運営規程に基づく会議を開催とともに、隔月で開催する理事会では、部会（ワーキンググループ）、委員会、執行理事会を経た重要案件などに対し的確な審議を行った。

① 定時総会 開催日 平成 28 年 6 月 18 日（土） 会場：大森東急 REI ホテル

② 定例理事会 7 回（隔月）

③ 定例執行理事会 12 回（毎月）

④ 支部長会議 3 回

⑤ 全国幹事連絡会議 1 回

⑥ 各種委員会、部会（ワーキンググループ）

3) その他

① 表彰事業（学生表彰を含む）の実施

平成 27 年度の各賞の表彰を平成 28 年度定時総会・第 65 回日本臨床検査学会で執り行った。

・定時総会時の表彰 永年職務奨励者 1,404 名、日臨技有功賞 功労賞 1 名  
結核予防会 結核研究奨励賞（日臨技推薦） 1 名

・第 65 学会時の表彰 日臨技学術奨励賞

優秀論文賞 3 編、最優秀演題賞 1 編、優秀演題賞 5 編  
特別奨励賞 3 編

・各支部学会時の表彰 特別奨励賞表彰

北日本支部 3 名 関甲信支部 3 名 首都圏支部 3 名

中部圏支部 3名 近畿支部 3名 中四国支部 3名

九州支部 3名

・日臨技学生表彰会長賞

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会加盟校の卒業予定の学生を対象とし、各校から1名の推薦により58名を表彰した。

・平成28年度の各賞表彰については次のとおり決定したので、平成29年度定時総会・第66回日本臨床検査学会で執り行う予定である。

永年職務奨励賞 1,281名

日臨技有功賞 会長賞 1名 有功賞 0名 特別賞 1名

日輪外学術奨励賞 最優秀論文賞 1編 優秀論文賞 3編

最優秀演題賞 1編 優秀演題賞 6編

特別奨励賞 3編

② 会報JAMT、JAMTマガジンの発信、発刊

日臨技、支部、都道府県技師会の活動報告など、会員への迅速な情報を提供し（会報JAMTは2回/月発信、JAMTマガジンは6回/年発刊）組織連携・強化を図った。

③ 全国幹事連絡会議

平成29年1月28日（土）日臨技会館で平成28年度全国幹事連絡会議を開催し、平成29年度事業計画（案）の概要説明、都道府県技師会に対する助成事業（案）を説明し、担当理事から平成29年度本稼働を目指して準備が進められている「自己学修支援システム（eラーニング）」の概要説明と今後の導入スケジュールについて補足説明を行った。

また、宮島会長から「第48回社会保障審議会医療部会」に提出された「遺伝子関連検査等の品質・精度の確保について」の制度改正に向けた経緯と提案内容について説明を行った。

④ 賀詞交換会の開催

平成29年日臨技賀詞交換会を平成29年1月27日（金）に開催し、協力関係にある諸団体との連携を深めた。

## 8. その他の公益的事業・会員拡大・法人管理～就労支援事業、国民医療

向上・安全対策事業、会員拡大、共済事業、予算管理、事務管理、会館管理～

### 1) 就労支援事業

無料職業紹介事業の利用者の利便性を図ることを目的とし、ホームページによる運用を行った。

### 2) 国民医療向上・安全対策事業

#### ① 季刊誌「ピペット」の発行・配布

職能団体として、広く国民に臨床検査技師及び臨床検査技師会を知っていただく手段として季刊誌「ピペット」を発刊した。2017冬号 vol.14 発送時点での配布協力施設は657施設、発送部数は約10万部となった。

#### ② 全国「検査と健康展」の開催

11月を「臨床検査と健康・普及啓発月間」と定め、国民への健康管理と予防の重要性を普及・啓発をするとともに、臨床検査技師の業務を広く周知するため、厚生労働省を

はじめ各医療団体等の後援を得て、臨床検査専門医会の協力の下、全国都道府県技師会主催で「検査と健康展」を開催した。

- ・中央会場（担当：奈良県臨床検査技師会）

11月12日（日） 会場：奈良100年会館 来場者：1,240人

- ・地方会場（46都道府県技師会で開催） 来場者：14,660人

### 3) 会員拡大

平成28年度事業計画で掲げた会員6万人の実現がほぼ達成した。

平成28年度の会員登録状況（平成29年3月31日現在）は、次のとおりである。

◇ 会員登録数	59,805名	（前年同期 57,797名）
◇ 新入会員数	3,102名	（前年同期 3,654名）
◇ 再入会員数	821名	（前年同期 1,199名）
◇ 退会数	1,912名	（前年同期 1,753名）

### 4) 共済事業

#### ① 共済制度

平成28年度の見舞金支給及び平成29年度会費全額免除を承認した。

熊本地震 : Aランク 25名 会費減免 24名（1名辞退）  
Bランク 58名、Cランク 224名

鳥取地震 : Cランク 5名

台風10号(岩手県) : Aランク 4名 会費減免 4名

その他 : Cランク 3名

Aランク：10万円 Bランク：5万円 Cランク：2万円

災害名	所属県	申請日	承認日	見舞金ランク	翌年度会費減免	人数
熊本地震	熊本県	280904	280917	A	○(1名辞退)	16名
熊本地震	熊本県	281119	281217	A	○	6名
熊本地震	熊本県	281119	281217	B		50名
熊本地震	熊本県	281119	281217	C		213名
熊本地震	大分県	281119	281217	B		1名
熊本地震	大分県	281119	281217	C		1名
6/20大雨	熊本県	281119	281217	C		1名
台風9号	埼玉県	281119	281217	C		1名
台風10号	岩手県	281119	281217	A	○	4名
台風10号	岩手県	281119	281217	C		1名
熊本地震	熊本県	290213	290325	A	○	3名
熊本地震	熊本県	290213	290325	B		7名
熊本地震	熊本県	290213	290325	C		10名
鳥取地震	鳥取県	290213	290325	C		5名

#### ② 保険補償制度

全員加入保険（臨床検査技師賠償責任保険）、会務中のケガへの補償（傷害保険）、日臨技退会後5年間の賠償責任継続補償、業務中の感染見舞金制度を継続した。

○請求事例（平成28年4月1日～平成29年3月31日、保険金支払済）

・傷害	1 件
・賠償	7 件
・業務中の感染	0 件

### ③ 制度の広報

- ・JAMT 共済ネット当会ホームページに「JAMT 共済ネット」(保険・各種会員割引制度・生活情報サービス) を掲載し会員福利厚生制度の普及・啓発を行った。
- ・会員のための各種相談窓口の設置

臨床検査業務、医療事故やヒヤリハット、労務問題、その他プライベートにおける税務問題や心の悩み等、会員が無料で相談できる窓口を設置し、ホームページ等を通じて会員に広報した。

検体採取等に関する厚生労働省指定講習会の受講者に対し、日臨技 全員加入保険のパンフレット「全員加入保険拡充のご案内」を作成し、受講者に配布した。

## 5) 予算管理

事業の進行管理と適正な予算編成のため、各事業の担当理事と担当職員が事業予算の執行額を四半期単位で把握、分析する仕組み導入したこと、平成 29 年度は健全な予算編成となつた。

## 6) 事務管理

### ① 事務局体制・事務員の戦力化

今年度は管理職職員 2 名の定年退職、2 名の退職があり事務局機能の安定化は急務であったことから、後補充として業務課 2 名、総務課 1 名を採用し体制を整えた。

### ② 会員システムの改善

会員の各種行事参加や生涯学習教育履歴については、日臨技の総合情報管理システムで管理しており、今年度は会員へのメルマガシステム及びバナー追加を含む書籍購入、DVD 動画バナーサイト、EC ナビの改修を図った。

### ③ マイナンバーへの対応

「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」、「個人情報の保護に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)」を遵守し、特定個人情報の適正な取扱いを行うための規程等に基づき、常勤役員、職員並びに対象となる講師等の特定個人情報を管理した。

### ④ プリンター・コピー設備の更新

平成 23 年から使用している複合機の 5 年リースが到来することから、用途、使用頻度等を考慮した機種構成に変更することで月約 20 万円の経費の削減となった。

## 7) 会館管理

### ① 会館の保守・修繕

冷暖房設備が 16 年経過し、故障・不具合が発生していたことから 5 月に全館的な改修工事を実施した。また、1 月には高圧洗浄車を使った排水管洗浄を行った。

### ② ロゴマークの設置

会館玄関前に JAMT のロゴマークを設置した。

《別紙 資料 5 組織調査》

《別紙 資料 6 会員数推移》

【別紙】資料 1 《研修会等開催状況》

学術 日臨技研修会等開催状況

主催学術教育研修		
第2回乳房超音波技術講習会	平成28年9月18・19日	藤田保健衛生大学
第3回遺伝子・染色体研修会	平成28年10月15・16日	長浜バイオ大学
関連団体と連携した研修会		
輸血テクニカルセミナー2016	平成29年3月18・19日	東邦大学医学部大森キャンパス
支部指定講習会		
輸血テクニカルセミナー支部伝達講習会（初級者への指導者育成のため）		
北日本支部	平成28年9月24・25日	札幌医科大学
関甲信支部	平成28年12月10・11日	信州大学
首都圏支部	平成28年11月19・20日	東邦大学医学部
中部圏支部	平成28年11月26・27日	ベックマンコールター三島工場・ 静岡県立静岡がんセンター
〃		福井県立病院・福井大学医学部
近畿支部	平成28年9月17・18日	愛媛大学医学部
中四国支部	平成28年7月16・17日	長崎大学医学部
九州支部	平成29年2月4・5日	
支部の特性を活かした研修会		
北日本支部 7回	関甲信支部 5回	首都圏支部 7回
近畿支部 6回	中四国支部 5回	中部圏支部 9回

日臨技認定センター 関連研修会の開催

資格更新に関する研修会		
認定管理検査技師コース資格更新指定講習 第2回経営管理夏季セミナー	平成28年6月25・26日	大田区民プラザ
認定心電検査技師資格更新研修会	平成28年8月13・14日	帝京大学
認定一般検査技師資格更新研修会	平成28年8月21日	広島大学病院
認定認知症領域検査技師スキルアップセミナー（資格更新用）	平成28年9月24日	東北大学
育成研修会		
認定一般検査技師育成研修会	平成28年7月2・3日	九州大学病院
認定心電検査技師育成研修会	平成28年10月23日	京都府テルサ
認定心電検査技師育成研修会	平成28年11月12日	札幌医科大学
認定心電検査技師育成研修会	平成28年11月26日	帝京大学
認定心電検査技師育成研修会	平成28年12月3日	カンファレンスASC
認定試験受験指定講習会・研修会		
認定救急検査技師制度 第2回指定講習会	平成28年6月19日	大阪医科大学
認定救急検査技師制度 第3回指定講習会	平成28年7月17日	文京学院大学
認定病理検査技師制度 指定講習会	平成28年7月23・24日	大崎プライトコア
認定救急検査技師制度 第1回指定講習会〔震災のため延期〕	平成28年8月7日	九州大学
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 第1回指定講習会	平成28年11月5日	当会会館
認定認知症領域検査技師 第3回認定指定講習会	平成29年2月25・26日	名古屋市立大学
非認定資格者限定		
認定認知症領域検査技師講座	平成28年9月25日	東北大学

## 【別紙】資料 2 支部運営

### 1) 支部内連絡会議 年1回

北日本	平成28年9月30日(金)14時～17時	(ホテルサンルート新潟 2階会議室)
関甲信	平成28年10月30日(日)12時～13時30分	(セレス甲府アピオ)
首都圏	平成28年11月10日(木)17時～19時	(東京都臨床検査技師会 事務所)
中部圏	平成28年6月4日(土)13時～17時	(名古屋駅前 ABC貸会議室)
近畿	平成28年10月22日(土)15時～17時	(大阪府臨床検査技師会 事務所)
中四国	平成28年11月25日(金)15時30分～17時30分	(サウスブルーズホテル アニエス2階)
九州	平成28年6月19日(日)10時～13時	博多八仙閣本店)

### 2) 支部幹事会の開催 年2回

北日本	平成28年7月22日(金)14時～17時	(札幌医科大学 保険医療学部 大講義室)
	平成29年2月17日(金)14時30分～17時	(ヒューモスファイブ9階 会議室)
関甲信	平成28年6月18日(土)15時～17時	(東京都臨床検査技師会 事務所)
	平成29年2月4日(日)13時～15時	(UDX秋葉原 GALLERY NEXT-1)
首都圏	平成29年2月4日(日)13時～15時	(UDX秋葉原 GALLERY NEXT-1)
中部圏	平成28年12月9日(金)13時～17時	(ホテル金沢 4階 葵)
近畿	平成28年7月16日(土)14時～16時	(大阪府臨床検査技師会 事務所)
	平成29年2月4日(土)14時～16時	(大阪府臨床検査技師会 事務所)
中四国	平成28年7月2日(土)15時～16時	(ホテルグランヴィア岡山)
九州	平成28年10月7日(金)15時～17時	(ホテルグランデはぐくれ)
	平成29年2月4日(土)14時～17時	(博多 八仙閣本店)

### 3) 支部学会

支部	開催日時 / 会場	参加人数	演題数
北日本	会期：平成28年10月1日（土）～2日（日） 会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター テーマ：次世代医療の扉を開く Toki ~臨床検査イノベーション~	1,085	130
関甲信・首都圏	会期：平成28年10月29日（土）～30日（日） 会場：セレス甲府・アピオ テーマ：「甲斐」～そして未来に繋ぐ～	1,076	135
中部圏	会期：平成28年12月10日（土）～11日（日） 会場：ホテル金沢 テーマ：輝きある検査びとへの新軌道 医療Ensembleの担い手として	1,089	127
近畿	会期：平成28年5月14日（土）～15日（日） 会場：和歌山県JAビル、新橋ビル テーマ：臨床検査の進む道 高めよう検査力！育てよう人間力！	1,071	107
中四国	会期：平成28年11月26日（土）～27日（日） 会場：高知市民文化プラザかるぽーと テーマ：土佐からの新風～碎考・再構・最高（さいこう・サイコ・Bravo）～	1,430	189
九州	会期：平成28年10月8日（土）～9日（日） 会場：佐賀市文化会館 テーマ：極 未来を拓く検査のヒカリ	1,148	129

## 【別紙】資料3

## 平成28年度 各種団体・学会 派遣一覧

団体・学会	役職名	派遣役員	
日本医師会	精度管理検討委員会委員	細萱茂実	
日本衛生検査所協会	衛生検査所業公正取引協議会運営委員	横地常広・深澤恵治	
日本医療技術者団体連絡協議会	会長	宮島喜文	
	評議員	横地常広	
	衛生検査専門部会・調査指導中央委員会 副委員長	横地常広	
医療関連サービス振興会	衛生検査専門部会委員	深澤恵治	
	医療機器保守点検部会委員	深澤恵治	
	チェックリスト再改定に係るワーキンググループ	深澤恵治	
	理 事	長沢光章	
日本臨床検査標準協議会 (JCLS)	ISO/TC212 国内検討委員会(団体委員)	細萱茂実	
	船 1 臨床検査室における品質(質)と能力	猿原克幸 久末直子	
	船 2 基準システム	山本慶和 大久保滋夫 細萱茂実(兼任)	
	船 4 抗菌薬感受性検査	長沢光章	
	船 5 バイオリスク・マネージメント	長沢光章(兼任)	
臨床検査振興協議会	臨床検査基準範囲共用化委員会	小島佳也 細萱茂実	
	教育・出版委員会	千葉正志	
	用語委員会	千葉正志	
	認証委員会	細萱茂実	
臨床検査委員会	役員	副理事長 監事 / 理事	宮島喜文 横地常広 / 長沢光章 丸田秀夫 深澤恵治
	診療報酬委員会	診療報酬改定に関する小委員会	林 充 山本幸治
	医療政策委員会	診療報酬制度に関する小委員会 臨床検査の品質・精度管理に関する小委員会 在宅医療における臨床検査の小委員会	永井正樹 横地常広 深澤恵治
	広報・編集委員会		深澤恵治 小澤 優
チーム医療推進協議会	理事		横地常広
	代議員 担欠代議員		横地常広 下田勝二
日本臨床検査医学会	HbA1c適正運用機構		永峰康孝
	日臨技-JSLM合同未来構想ワーキンググループ		長沢光章
	学術集会企画委員会		長沢光章 代理者 片山博徳 横地常広
日本臨床検査同窓会	神経生理学試験委員		高橋 修
独立行政法人産業技術総合研究所計量標準管理センター	標準物質トレーサビリティ認証委員会委員		細萱茂実
医療機器センター	評議員		横地常広
公益財団法人 結核予防会	結核研究奨励賞選考委員会委員		岡田茂治
CRC あり方会議支援委員会	支援委員		横地常広
日本認知症予防学会	16回学会プログラム委員 / 17回学会プログラム委員		長谷山貴博 / 東影明人
日本臨床検査自動化学会	POC技術委員会		岡田 健 小島佳也
日本適合性認定協会	臨床検査室 技術委員会		横地常広 代理者 滝野 寿
日本栄養療法推進協議会	理 事		長沢光章
	評議員		千葉正志 岡田茂治
	認定委員会委員		岡田茂治
	認定基準策定委員会委員		長沢光章
日本臨床化学会	酵素・試薬専門委員会プロジェクト		大澤智彦
日本輸血・細胞治療学会	輸血検査に係る臨床検査技師への「共同事業協議会」		千葉正志 岡田茂治
一般社団法人日本病理学会	病理検体処理ガイドライン策定ワーキンググループ		滝野 寿 徳永英博
特定非営利活動法人 日本病理精度保証機構	副理事長		片山博徳
	理 事		古屋周一郎
	代表		梅宮敏文
	企画・運営委員会		梅宮敏文
認定検査技師機構	副理事長		宮島喜文
	事務局長		西浦明彦
	委 員		長沢光章
	委 員		西浦明彦 岡田茂治
認定臨床微生物検査技師制度協議会	委 員		宮島喜文
同 審議会	委 員		西浦明彦 岡田茂治
サイトメトリー技術者認定協議会	委 員		片山広美
同 審議会	委 員		西浦明彦 岡田茂治
認定血液検査技師制度協議会	委 員		西浦明彦
同 審議会	委 員		宮川朱美
海外	Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AMLS)	理 事	宮島喜文
	International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS)	理 事	片山博徳
	国際医療技術交流財団 (JIMTEF)	理 事	宮島喜文

## 【別紙】資料4

## 平成28年度 委員会部会(ワーキンググループ)設置状況

部門	担当	委員会・WG	常設
実施事業	精度保証	標準化委員会	<input type="radio"/>
		精度保証施設認証WG	<input type="radio"/>
		免疫ハーモナイゼーション	
		基幹施設管理WG	
		基準検査室WG	
		血球形態標準化WG	
		穿刺液検査標準化WG	
		病理検査標準化準備WG	
		血液凝固検体取り扱い標準化WG	
		血液試料作製法標準化WG	
その他事業	精度管理	精度管理調査委員会	<input type="radio"/>
		精度管理・臨床化学WG	
		精度管理・免疫血清WG	
		精度管理・病理WG	
		精度管理・遺伝子WG	
		精度管理・輸血WG	
		精度管理・一般WG	
		精度管理・微生物WG	
		精度管理・血液WG	
		精度管理・細胞WG	
その他事業	出版	精度管理・生理WG	
		精度保証管理委員会	
		出版	(出版会)
		認定センター中央認定委員会	<input type="radio"/>
		認定センター認定制度協議会	<input type="radio"/>
		学会組織委員会	
		国際WG	
		学術委員会	
		日本輸血・細胞治療学会「共同事業協議会」	
		学術企画WG	
法人管理	教育研修1	チーム医療実践WG	<input type="radio"/>
		教育研修2	厚労省指定講習会（検体採取等講習会）WG
		教育研修3	生涯教育あり方委員会
		e ラーニング推進WG	
		会誌発行	出版WG
		学会	第65回学会運営部会
			第66回学会運営部会
			第67回学会運営部会
		支 部	IPLS 各委員会
			支部長連絡会議
法人管理	教育研修2		支部幹事会
			支部内連絡会議
		渉 外	メディカルスタッフ業務推進WG
			災害支援WG
			医療安全委員会
			医療政策WG
			診療報酬委員会
			病棟業務推進施設連絡協議会
			在宅業務WG
			認知症WG
法人管理	組織対策		グレーデン（職域）WG
			データ解析WG
		組織対策	全国幹事連絡会議
			組織強化WG
			定款・諸規程変更検討委員会
		組織運営	予算委員会
			人事委員会
			表彰委員会
			役員候補者選出委員会
			倫理/利益相反委員会
共 治	組織運営		システムWG
			広報WG
			設立母体別代表者会議
			日臨技B 5周年事業準備WG
			報酬等審議委員会
共 治	法人管理		資格審査委員会
			予実管理WG
共 治	共 治	事務局体制WG	
		共 治制度委員会	<input type="radio"/>

## 【別紙】 資料5

## 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 組織調査(平成29年3月31日時点)

## (1)会員種別免許別 性別・会員数

会員分類	免許別	男性	女性	入会会員数
正会員	臨床のみ	18,175	40,033	58,208
正会員	衛生のみ	146	88	234
正会員	両方取得	664	691	1,355
B賛助会員	両方未取得	1	2	3
名誉会員	両方取得	5	0	5
合計		18,991	40,814	59,805

## (2)生年月日別 性別・会員数

生年月日	男性	女性	入会会員数
大正1.07.30～大正15.12.24	7	0	7
昭和1.12.25～昭和4.12.31	7	0	7
昭和5.01.01～昭和9.12.31	22	1	23
昭和10.01.01～昭和14.12.31	32	5	37
昭和15.01.01～昭和19.12.31	70	19	89
昭和20.01.01～昭和24.12.31	277	129	406
昭和25.01.01～昭和29.12.31	719	817	1,536
昭和30.01.01～昭和34.12.31	2,666	3,029	5,695
昭和35.01.01～昭和39.12.31	2,856	4,051	6,907
昭和40.01.01～昭和44.12.31	2,252	4,487	6,739
昭和45.01.01～昭和49.12.31	1,826	5,169	6,995
昭和50.01.01～昭和54.12.31	1,586	5,199	6,785
昭和55.01.01～昭和59.12.31	1,900	5,738	7,638
昭和60.01.01～平成1.12.31	2,583	5,930	8,513
平成2.01.01～平成6.12.31	2,163	6,146	8,309
平成7.01.01～平成11.12.31	25	94	119
合計	18,991	40,814	59,805

## (3)入会年度別 性別・会員数

入会日	男性	女性	入会会員数
昭和27～昭和29 年度	14	0	14
昭和30～昭和34 年度	14	1	15
昭和35～昭和39 年度	27	3	30
昭和40～昭和44 年度	91	28	119
昭和45～昭和49 年度	236	144	380
昭和50～昭和54 年度	751	764	1,515
昭和55～昭和59 年度	2,054	1,687	3,741
昭和60～平成1 年度	2,016	2,371	4,387
平成2～平成6 年度	2,046	3,431	5,477
平成7～平成11 年度	1,494	3,474	4,968
平成12～平成16 年度	1,582	4,471	6,053
平成17～平成21 年度	2,360	7,146	9,506
平成22～平成26 年度	4,089	10,687	14,776
平成27～平成31 年度	2,217	6,607	8,824
合計	18,991	40,814	59,805

## (4)病床数別 施設数・会員数

病床数範囲	施設数	入会会員数
なし	1,295	6,405
1～19	209	408
20～99	996	2,469
100～199	1,425	6,135
200～299	732	5,379
300～499	850	12,305
500～699	279	7,779
700～999	97	4,310
1,000以上	48	2,825
未記入	1,620	3,832
不明	0	0
自宅	0	7,958
合計	7,551	59,805

## (5)施設形態別 施設数・会員数

施設形態	施設数	入会会員数
一般病院Ⅰ(特定機能病院)	143	5,981
一般病院Ⅱ(地域医療支援病院)	496	11,010
一般病院Ⅲ(機能指定なし)	3,863	24,244
精神病院	361	664
療養所(一般)	79	286
療養所(結核)	19	119
診療所(有床)	167	323
診療所(無床)	873	1,547
検診センター	160	1,181
健診センター	94	478
歯科(病院)	6	21
歯科診療所	1	1
研究所	89	261
保健所	122	205
血液センター	49	244
学校	146	710
衛生検査所	563	3,936
製薬会社	41	57
医療機器会社	47	73
その他	214	483
未記入	18	23
不明	0	0
自宅	0	7,958
合計	7,551	59,805

## (6)経営主体別 施設数・会員数

経営主体	施設数	入会会員数
文部科学省Ⅰ(大学)	74	2,189
文部科学省Ⅱ(その他)	3	10
厚生労働省Ⅰ(大学)	3	12
厚生労働省Ⅱ(その他)	133	1,613
労働者健康安全機構	34	608
その他の省庁	51	298
都道府県	360	3,427
市町村	688	6,307
日赤(赤十字)	143	2,323
済生会	79	1,299
北海道社会事業協会	4	21
厚生連	121	1,974
国民健康保険団体連合会	2	3
全国社会保険協会連合会	6	17
厚生年金事業振興団	2	96
船員保険会	4	31
健康保険組合及びその連合会	26	266
共済組合及びその連合会	40	547
国民健康保険組合	5	17
公益法人	483	4,171
医療法人	3,126	11,783
学校法人	200	4,041
会社	690	3,897
その他の法人	527	4,456
個人	583	954
厚生労働省	37	311
文部科学省	40	575
三公社	0	0
その他(公)	32	364
その他(社)	29	205
未記入	21	32
不明	0	0
自宅	0	7,958
合計	7,551	59,805

(発行日：平成29年4月11日)

## 【別紙】資料6

## 平成28年度入会員数推移

所属都道府県技師会		平成24年度 (H25/3/31)	平成25年度 (H26/3/31)	平成26年度 (H27/3/31)	平成27年度 (H28/3/31)	平成28年度 (H29/3/31)
01	北海道	2,856	2,877	2,912	2,992	3,063
02	青森県	587	583	586	605	614
03	岩手県	532	543	535	542	552
04	宮城県	952	972	987	1,030	1,044
05	秋田県	602	603	592	590	589
06	山形県	571	586	598	610	610
07	福島県	1,023	1,040	1,063	1,092	1,096
15	新潟県	1,250	1,275	1,282	1,305	1,336
99	日臨技	8	17	25	64	85
[北日本支部]		8,381	8,496	8,580	8,830	8,989
08	茨城県	1,075	1,108	1,155	1,195	1,201
09	栃木県	841	854	873	890	888
10	群馬県	891	921	945	959	991
11	埼玉県	2,240	2,322	2,461	2,607	2,753
19	山梨県	423	436	439	456	457
20	長野県	1,234	1,249	1,270	1,314	1,334
99	日臨技	13	49	83	177	211
[関甲信支部]		6,717	6,939	7,226	7,598	7,835
12	千葉県	1,694	1,759	1,858	1,932	2,041
13	東京都	4,380	4,581	4,859	5,277	5,539
14	神奈川県	2,832	2,945	3,081	3,218	3,305
99	日臨技	27	96	184	382	473
[首都圏支部]		8,933	9,381	9,982	10,809	11,358
16	富山県	536	532	537	555	563
17	石川県	642	652	671	683	698
21	岐阜県	747	768	786	822	830
22	静岡県	1,505	1,507	1,542	1,613	1,642
23	愛知県	2,734	2,817	2,897	3,091	3,177
24	三重県	641	642	643	659	673
99	日臨技	18	33	53	120	158
[中部圏支部]		6,823	6,951	7,129	7,543	7,741
18	福井県	330	338	338	374	386
25	滋賀県	481	474	500	526	537
26	京都府	829	842	879	965	1,025
27	大阪府	2,614	2,593	2,741	2,981	3,111
28	兵庫県	1,495	1,519	1,575	1,698	1,796
29	奈良県	531	540	581	596	603
30	和歌山県	325	321	324	345	345
99	日臨技	152	218	239	361	424
[近畿支部]		6,757	6,845	7,177	7,846	8,227
31	鳥取県	310	315	320	329	327
32	島根県	425	433	425	442	433
33	岡山県	1,222	1,261	1,304	1,343	1,365
34	広島県	1,540	1,565	1,620	1,690	1,750
35	山口県	719	727	749	768	793
36	徳島県	399	419	416	430	437
37	香川県	604	624	635	661	669
38	愛媛県	735	737	754	786	799
39	高知県	605	618	621	634	657
99	日臨技	12	23	41	77	96
[中四国支部]		6,571	6,722	6,885	7,160	7,326
40	福岡県	2,769	2,844	2,937	3,081	3,183
41	佐賀県	288	299	306	326	323
42	長崎県	749	774	800	829	857
43	熊本県	1,025	1,039	1,090	1,152	1,193
44	大分県	663	672	700	731	760
45	宮崎県	398	412	431	458	475
46	鹿児島県	482	513	527	588	611
47	沖縄県	624	635	673	733	778
99	日臨技	5	23	55	113	149
[九州支部]		7,003	7,211	7,519	8,011	8,329
98	その他(支部不明)					
99	日臨技(支部不明)	4				
[支部不明]		4	0	0	0	0
【合計】		51,189	52,545	54,498	57,797	59,805